

鹿児島県指宿市で RESAS を活用した政策立案ワークショップを開催しました

令和2年6月

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

内閣府地方創生推進室

経済産業省九州経済産業局

鹿児島県指宿市にて、産業振興及び地方創生に携わる職員等を対象に、「地域経済分析システム（RESAS）」を活用した政策立案ワークショップを下記のとおり開催しました。観光産業分析の視点から専門家である日本交通公社観光政策研究部長 山田雄一氏、ビジネス・ブレークスルー大学専任講師／内閣府地方創生カレッジ講師 市角壮玄氏並びに学校法人川島学園れいめい中学校・高等学校教諭／RESAS副教材作成検討委員 上門大介氏の協力を得て、指宿市の地域産業における課題に照らし合わせ、意見交換を通じて、関係職員が地域経済分析に基づく、産業政策分野における企画・立案の重要性を考える契機となりました。

記

1. テーマ：「観光消費額を増やすための観光客の周遊・滞在時間延長に係る施策について」
2. 日 時：令和元年10月24日（木）9時30分～12時00分
3. 会 場：指宿市役所大会議室A・B
4. 共 催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
内閣府地方創生推進室
経済産業省九州経済産業局
5. 参加者：
 - ・指宿市職員（副市長、総務部、産業振興部） 10名
 - ・指宿市観光協会 1名
 - ・指宿商工会議所 1名
 - ・菜の花商工会 1名
 - ・日本交通公社 観光政策研究部長 山田 雄一 氏
 - ・ビジネス・ブレークスルー大学専任講師／内閣府地方創生カレッジ講師
市角 壮玄 氏
 - ・学校法人川島学園れいめい中学校・高等学校教諭／RESAS 副教材作成検討委員
上門 大介 氏
 - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局職員 3名
 - ・経済産業省（地域経済産業グループ地域経済産業調査室） 2名
 - ・経済産業省九州経済産業局（地域経済部職員） 4名

合計 25 名

6. 議事次第

- ① 自治体及び各団体等職員による RESAS 分析結果発表
- ② 有識者によるデータ分析と意見交換
- ③ 政策ディスカッション

1. ワークショップ実施の背景

- 指宿市は、市内全域を霧島火山脈が縦断しており、世界に類を見ない「天然砂むし温泉」をはじめとする豊富に湧出する温泉や、開聞岳、池田湖、知林ヶ島などの美しい自然、生産量日本一のオクラやソラマメ、鰹本枯節に代表される食、ホスピタリティにあふれる地域の方々の人柄など、豊富な地域資源に恵まれている。
- 近年、指宿市の観光を取り巻く情勢は、大きく変化しており、入込観光客数は、ほぼ横ばいで推移しているものの、日本人宿泊客数を見ると、平成30年はNHK大河ドラマ「西郷どん」効果により増加に転じたが、総体的には平成20年のNHK大河ドラマ「篤姫」をピークに減少傾向にある。
- 一方、インバウンドの宿泊客数は、インターネットの普及により移動や宿泊に係る予約等が容易になったことや、SNS等で指宿市の観光情報が拡散されていること、また、台湾線や香港線、韓国線、LCCの就航など、鹿児島県をあげての誘致戦略の効果もあり、近年、増加傾向が顕著になっている。しかし、県全体のインバウンド宿泊客数の増加に比べ、指宿市の宿泊客数の伸率は低く、宿泊客の地域別シェアは年々小さくなっていることから、インバウンドに限らず、指宿市の「日帰り観光地」化は着実に進んでおり、このことは、今後の観光消費額の減少にもつながっていく。
- そのような背景を踏まえ、指宿市の観光振興・地域活性化を進めていくためには、ターゲットを的確に把握しながら、自然や食、文化などの恵まれた地域資源を活用した新たなコンテンツの再発掘、磨き上げ、結び付けを行うとともに、それらを持続させていく取り組みが必要となる。
- このような問題意識のもと、行政だけでなく、観光業界、商工団体、地域住民を交えて、今後の指宿市がとるべき施策についてワークショップを実施した。

2. 分析手法

- RESASの目的地分析により、観光客の出発地や月別の検索件数の推移を把握。
- 産業別特化係数により、主力産業（宿泊業・農業等）の付加価値額等を全国平均と比較し課題を把握。
- 指宿市の実施した満足度調査及び鹿児島県観光統計等により、国内観光客・インバウンドの動向等を把握。
- 以上に加え、SWOT分析及びクロスSWOT分析により、指宿市の強み・弱みを把握し

た上で、課題を抽出し解決策を検討。

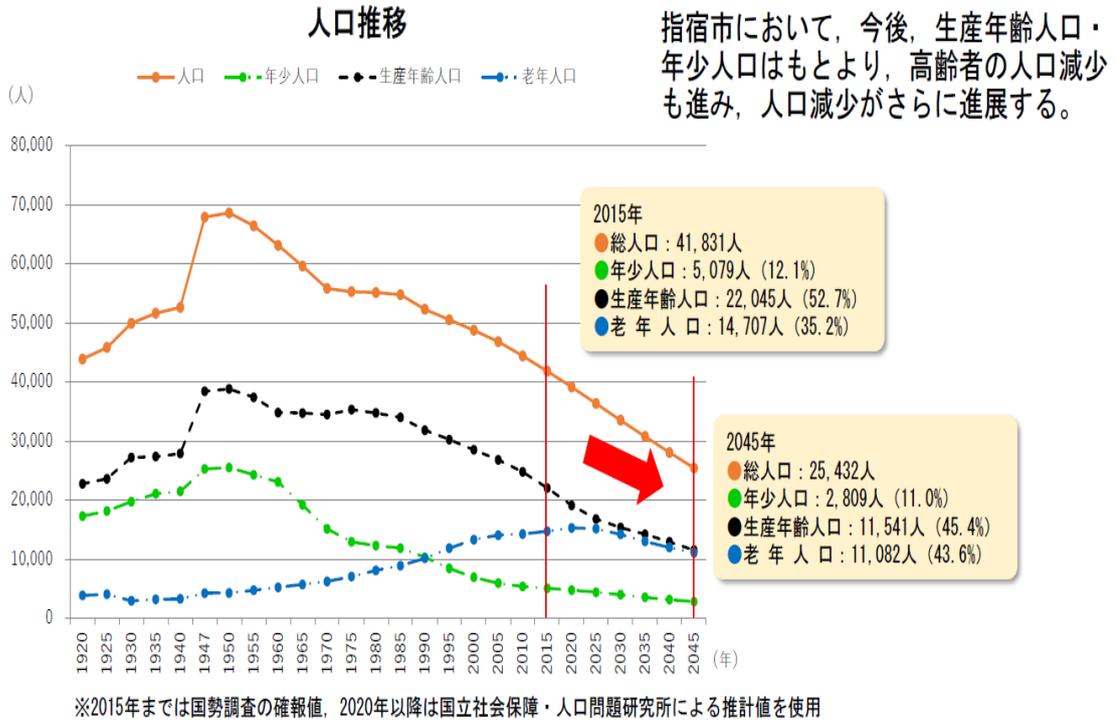
3. 指宿市の観光産業における課題と分析

(現状分析)

- 指宿市の人口は、41,831人(2015年)から2045年には25,432人と約39%減少すると推定されている。
- 全国や鹿児島県と比較して、農業、宿泊業・飲食サービス業及び医療・福祉関連産業の割合が多い。
- 「農業」「食料品」の影響力係数が高く、これらの産業に対する需要が増加すればその他産業への波及効果も高いといえる。
- 地域経済循環図から地域外からの財・サービスの購入により所得の一部が地域外に流出していることが分かる。
- 目的地検索において、指宿温泉が上位を占めるが、毎年6月に検索回数が落ち込む傾向にあり、また、毎年1月はいぶすき菜の花マラソン大会等により上昇している。2018年1月以降はNHKの大河ドラマ「西郷どん」の放映開始に伴い、大幅な上昇がみられる。
- 九州新幹線全開業以降、宿泊客数は減少傾向にあるが日帰り客数は増加傾向。2014年3月に鹿児島—香港間の航空路線就等により、インバウンドがさら増加した。2016年4月に発生した熊本地震より、国内旅行者の入込みが減少したが、「九州ふっこう割」や市独自の対策実施、NHK大河ドラマ等の効果により、回復しつつある。
- インバウンドは、香港、台湾、韓国等のアジア地域の近隣諸国等だけで、84.7%を占めている。
- 農業は付加価値額及び労働生産性が高くなっているが、宿泊業は労働生産性が全国平均以下となっている。
- 市場での関心は、黒川温泉と同様の水準にあり、湯布院よりも高い。ただし、海外からの関心は、相対的に低い。また、国内からの関心も、鹿児島県内に大きく偏っている。

(指宿市作成資料)

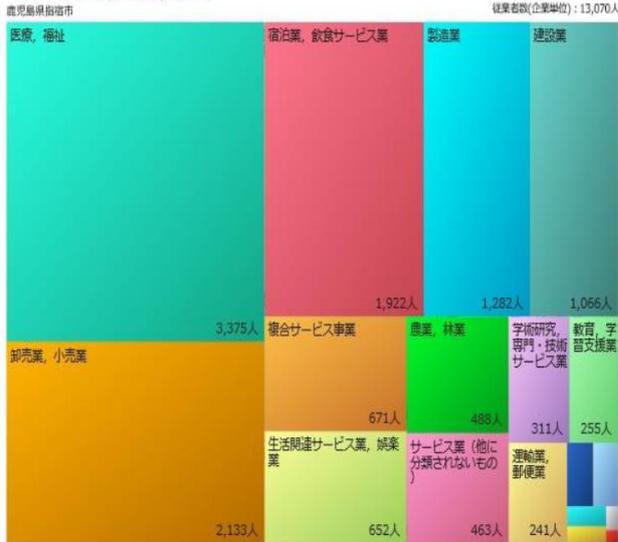
○指宿市の人口推移



指宿市において、今後、生産年齢人口・年少人口はもとより、高齢者の人口減少も進み、人口減少がさらに進展する。

○指宿市の産業

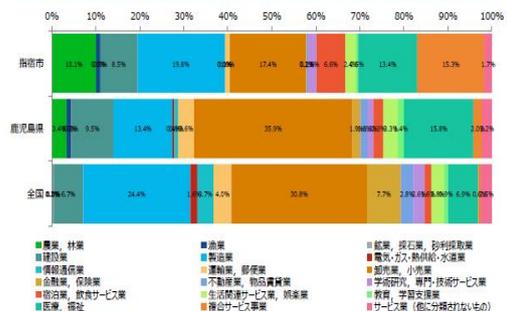
2016年 従業者数(企業単位) 大分類



産業大分類別に見た売上高(企業単位)の構成比(2016年)

産業構造マップ>全産業>全産業の構造 → 「横棒グラフで割合を見る」

・売上高(企業単位)について、産業大分類別の構成比を他地域と比較します。
 ・自地域において構成比の大きな産業、他地域と比較して構成比の小さな産業等、産業の特徴を概観できます。



全国や鹿児島県と比較して、農業、宿泊業・飲食サービス業及び医療・福祉関連産業の割合が多い。

○指宿市の地域経済の状況

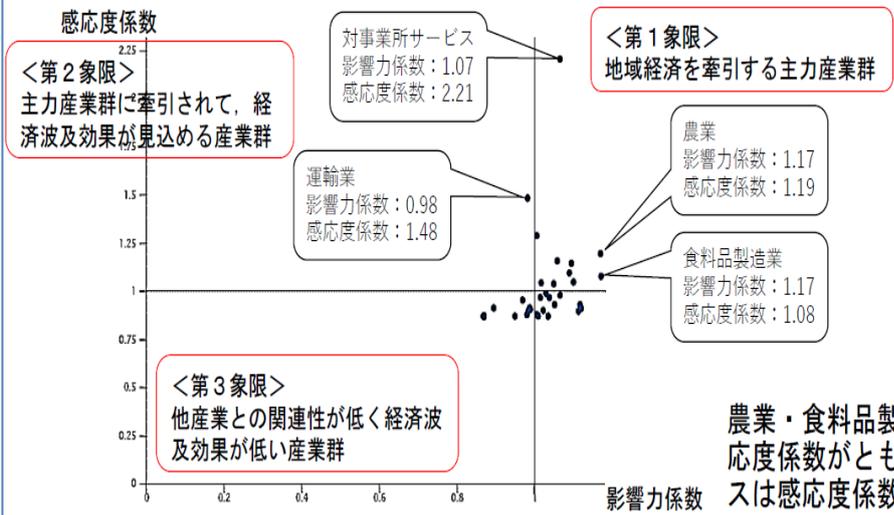
影響力・感応度分析（産業別）

2013年

指定地域：鹿児島県指宿市

指定産業：すべての大分類>すべての中分類

影響力係数：当該産業に対する新たな需要が、全産業（調達先）に与える影響の強さを示す。
感応度係数：全産業に対する新たな需要による当該産業が受ける影響の強さを示す。



農業・食料品製造業は、影響力係数、感応度係数がともに高く、対事業所サービスは感応度係数が高い。

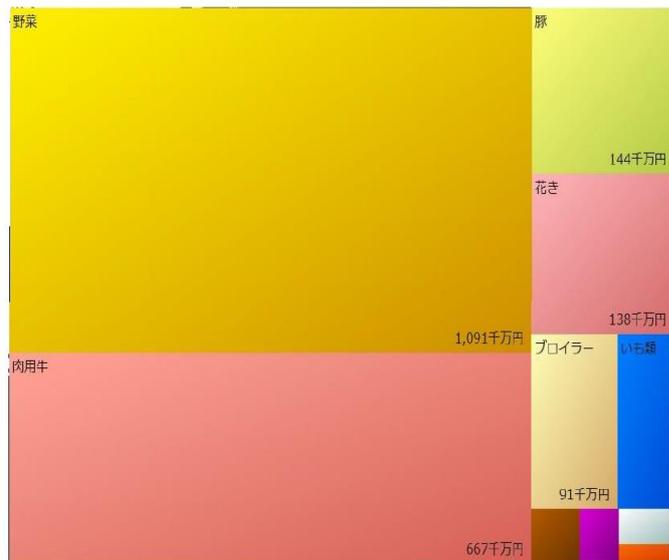
【出典】
環境省「地域経済循環調査」、「地域経済計算」（株式会社環境社会研究所（日本経済開発銀行グループ）提供作成）
地域経済循環分析 <http://www.emu.go.jp/policy/circulation/index.html>



○指宿市の農業産出額の内訳（2017年）

品目別 農業産出額 鹿児島県指宿市

市町村別農業産出額（推計）：2,251千万円



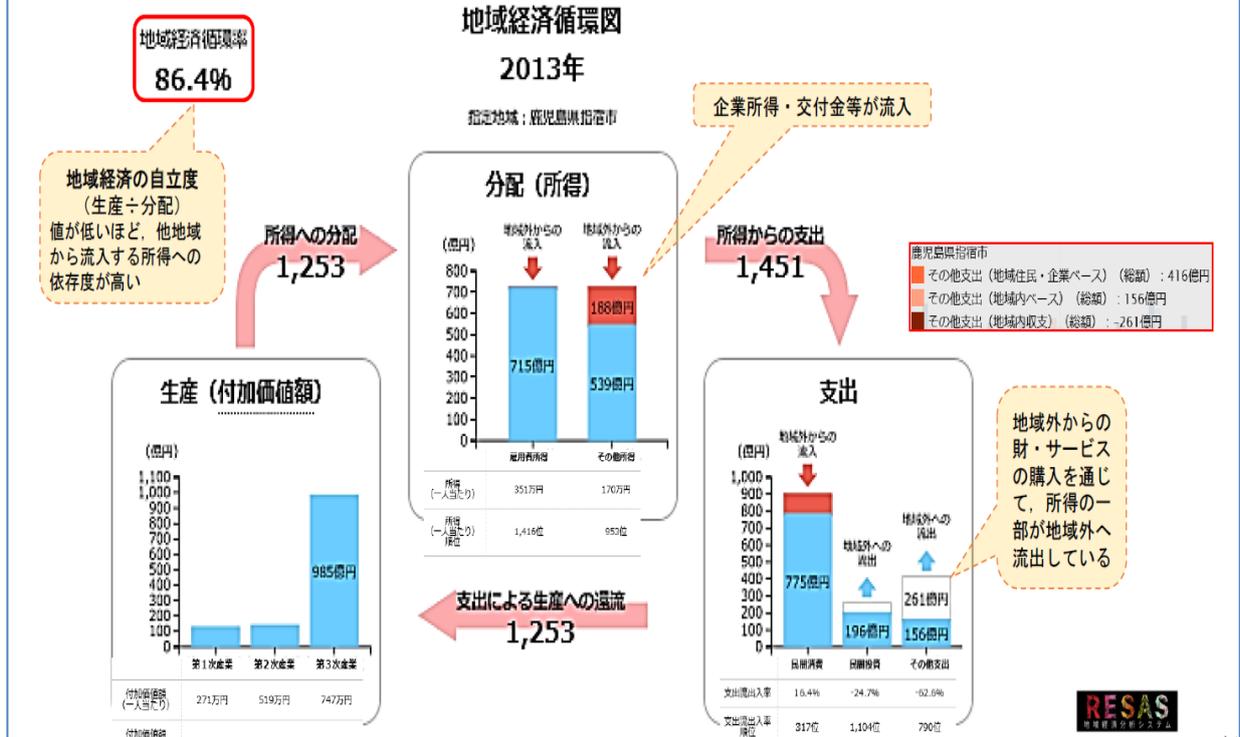
鹿児島県指宿市

- 米：6千万円
- 雑穀：0千万円
- 豆類：0千万円
- いも類：60千万円
- 野菜：1,091千万円
- 果実：13千万円
- 花き：138千万円
- 工芸農作物：16千万円
- 肉用牛：667千万円
- 豚：144千万円
- 鶏卵：11千万円
- プロイラー：91千万円
- 加工農産物：1千万円

農業産出額は、全国65位で、そのうち、肉用牛の産出額は全国12位となっている。



○指宿市の地域経済循環図



○指宿市の目的地検索ランキング (2017年)

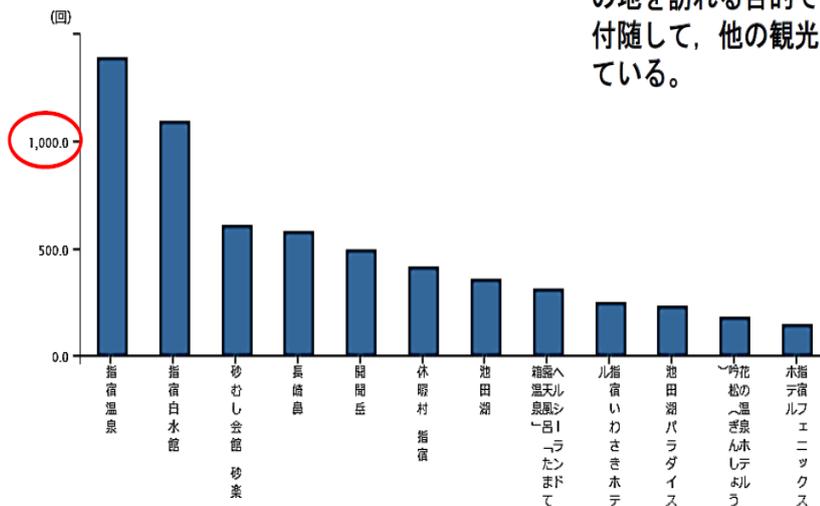
交通手段：自動車

表示年月：2017年すべての期間 (休日)

指定地域：鹿児島県指宿市

交通手段：自動車

NHK大河ドラマ「西郷どん」放映決定を受けて、主人公である西郷隆盛ゆかりの地を訪れる目的での来訪者が増加。付随して、他の観光地への来訪も増加している。



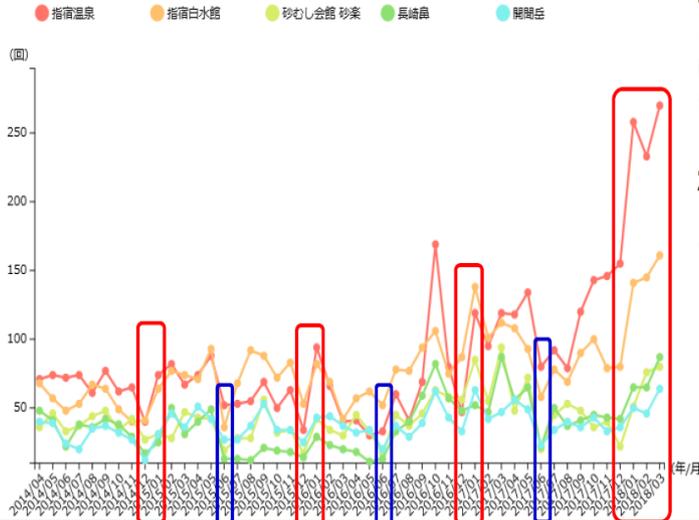
○目的地検索ランキングの推移

交通手段：自動車

表示年月：2014年4月～2018年3月（休日）

指定地域：鹿児島県指宿市

交通手段：自動車

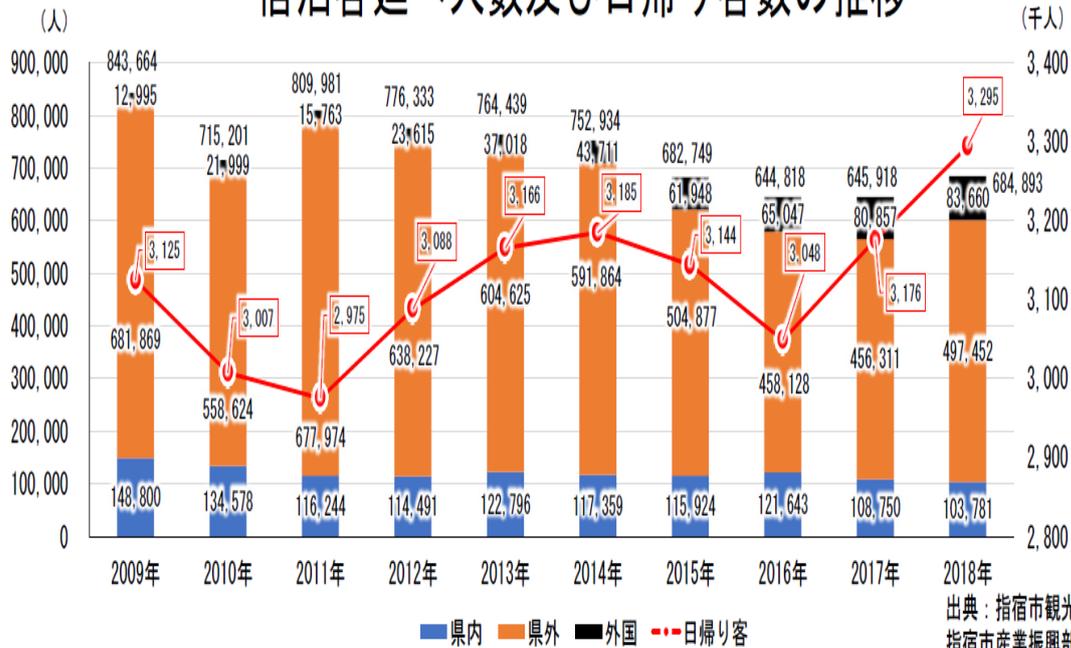


検索回数は毎年6月に落ち込む傾向がある。
 年末に減少するが、1月には再び上昇する。
 いぶすき菜の花マラソン大会等により、来訪するケースが多いことが窺える。
 2018年1月以降は、NHK大河ドラマ「西郷どん」の放映開始に伴い、大幅な上昇がみられる。



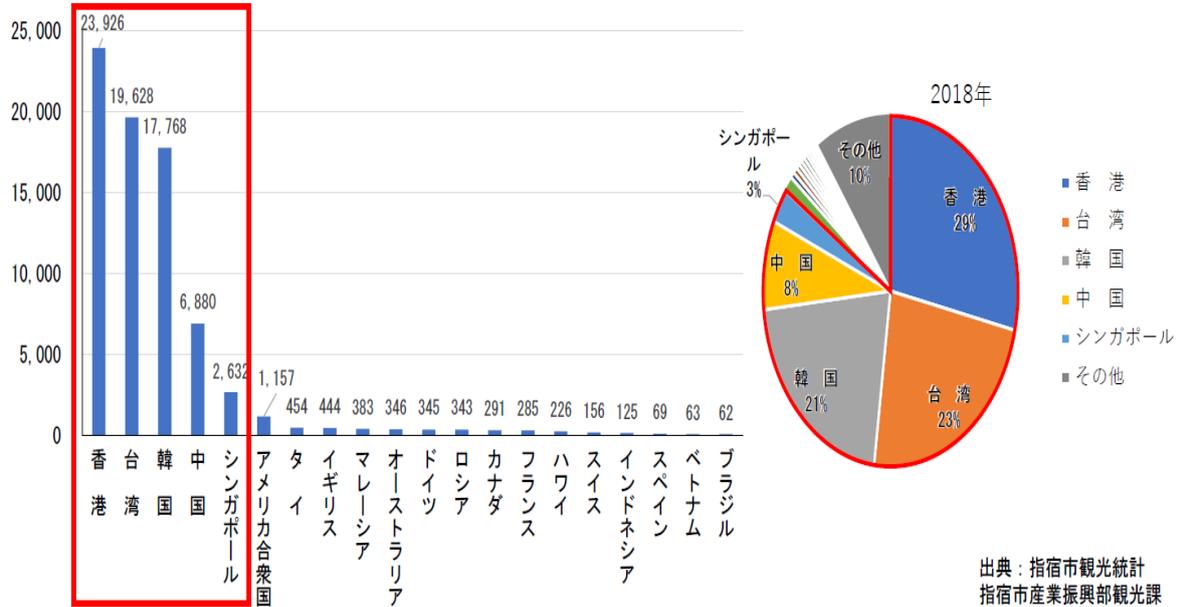
○宿泊者数及び日帰り客数の現状

宿泊客延べ人数及び日帰り客数の推移



出典：指宿市観光統計
 指宿市産業振興部観光課

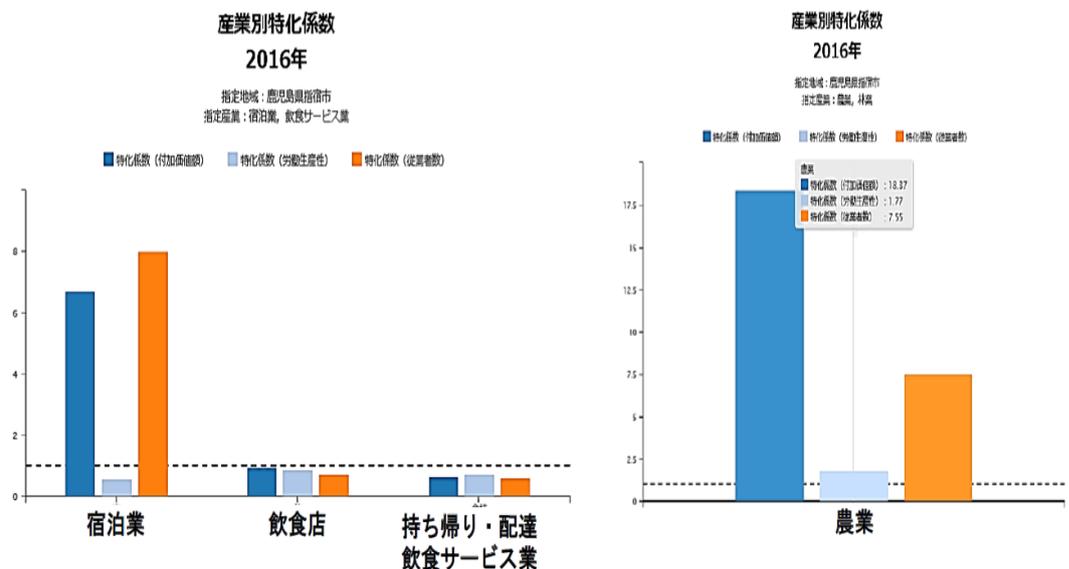
○外国人の国・地域別宿泊者数（2018年）



アジア地域の近隣諸国等だけで、84.7%を占めている。

出典：指宿市観光統計
指宿市産業振興部観光課

○主力産業の産業別の稼ぐ力の状況



農業においては、付加価値額及び労働生産性が高くなっているが、
宿泊業においては、労働生産性が全国平均以下となっている。



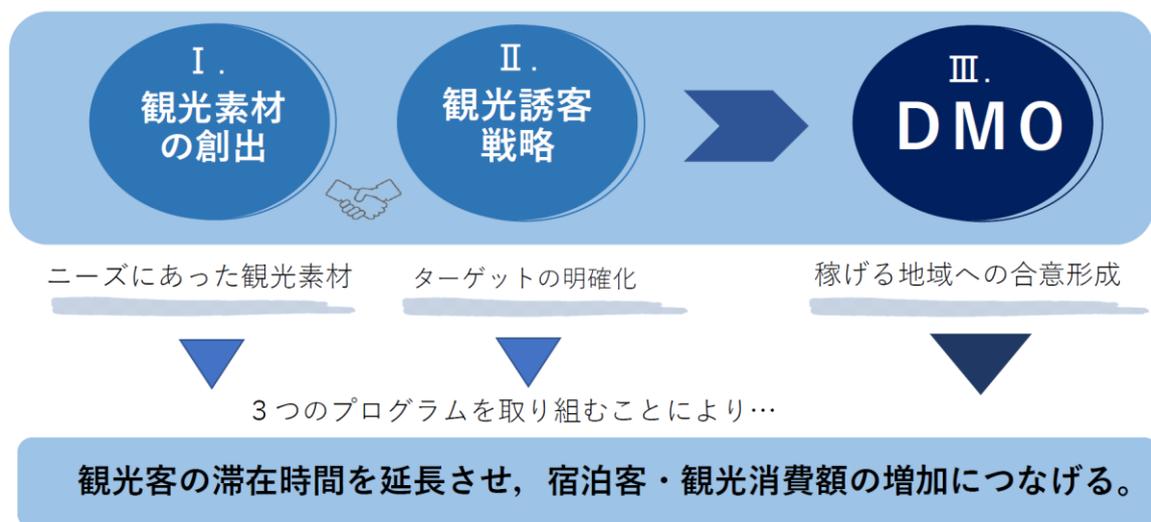
4. 解決策の検討 ～指宿市の新たな観光政策の方向性について

- 日帰り客は若干伸びているが、宿泊客が減っている。鹿児島市内はビジネスホテル等ハードが充実しており、外国人観光客は鹿児島駅周辺に宿泊しているものと推測される。全国で宿泊客が多いところには、夜、早朝のコンテンツが充実している。例えば、夜空ツアー、サンセットクルーズ、夜市、朝散歩ツアー、夜と朝のコンテンツを充実することが重要。夜のエンターテインメント、食など、アジア系の人には夜の時間が必要。指宿においても、そこに行けば何かある、人達と何かあるといった、を、温泉と統一感をもって楽しめるような夜のコンテンツを考えていく必要がある。
- 指宿駅前の活性化が長年のテーマであるが、未だ達成されていない。指宿港からいわさきホテルまでの1.8kmの防災を兼ねた砂浜を再生させようとする指宿港海岸整備事業が4年前から行われている。砂浜の背後地に緑地帯整備を要求しており、この砂浜、緑地帯を指宿の観光の目玉として取り組んでいるところ。指宿駅から海岸線まで約600m、緑地帯が指宿市の観光の目玉となれば、自然発生的に商店街の活性化に繋がる。指宿市には素晴らしい宿泊施設はあるが、街の中をそぞろ歩く所がない。緑地帯に遊歩道を設ければ観光客、市民が利用できる。海岸整備事業には非常に期待している。
- 人口減、高齢化に加え、観光地として色々良い素材はあるが活かし切れておらず、商店街の廃業が目立ってきている。5年後、10年後、同じ夢を見てゆく民間の投資が必要。RESAS等を活用して地域を分析し何が足りないのかを検討しつつ、事業承継も併行してやっていく。
- ハワイのワイキキでは、デザインワークショップを行い、あるべき景観デザイン、空間デザインを作った。それに従い道路幅、色使い、樹木等のデザインを作って公共事業を行い、その後民間に協力。視覚で感じられるデザイン作りが重要。
- 映画制作等のロケ地を意図的に持ってきてもなかなか上手くいかない。映画制作会社に協力するのであれば、地域の場所、面白さを出して、それが映画制作会社に伝わるような繋がりをしていく必要がある。
- 情報発信で何が有効か絶対的なものはない。他と同じ予算規模であれば、あまりインパクトはない。お客が自ら情報を出せる支援やどこのカットをどのように出してほしいのか地域側で考える必要がある。特に1分間程度の動画は有効で、高速のWi-Fiが近くにあれば、そこでシェアできる。

5. 施策提案～観光産業の稼ぐ力の強化策

- 新たな観光素材の創出
地域資源を活用した高付加価値の観光体験等の開発並びにすべての観光客が安心して快適に周遊・滞在できる観光地づくり。
- 戦略性のある観光誘客
指宿市の魅力を国内外に広く、効果的に発信していくため、多種多様な観点から観光客のニーズを的確に捉えた戦略性のある観光誘客。
- DMO「稼げる」地域づくりの推進
行政だけでなく、観光業界、商工団体、金融機関、地域住民等、多様な関係者が協同しながら、指宿市版DMO（観光地づくり法人）を核とした観光地づくりの推進。

課題解決に向けた政策イメージ



以上